

令和7年度第2回狭山市協働推進協議会会議録

開催日時	令和8年2月12日（木） 午前10時00分から午前11時40分まで
開催場所	中央公民館 視聴覚室
出席者	荒木委員、小川委員、田口（和）委員、田口（博）委員、中野委員 西本委員、安永委員、柳澤委員、稲葉委員、井上委員、西村委員
欠席者	齋藤委員、影山委員
事務局	自治文化課長、同課主幹、同課主事、同課主事補 さやま市民大学学長、市民大学担当課長、同主査
公開区分	公開
傍聴者	なし

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) さやま市民大学事業について

【資料5-1】及び【資料5-2】を参照し、事務局から説明を行った。

〈質疑応答・意見〉

委員

受講生の募集をして集まったボリュームゾーンの年齢、想定をしていたとおりの年齢層であったか教えてほしい。

事務局

平均は約71歳であり、平日の午前中に開講していることから想定していたとおりであった。

委員

コミュニティデザイン学部の講座については、年度当初に話を伺ったときより、充実しており、魅力的に感じた。また、実際にコミュニティデザイン学部のトークセッションに協力させてもらう中で非常に面白いと感じたので、今後も何か協力していきたいと思った。

委員

提案型協働事業を実施している市民活動団体と市民大学の受講生がうまく繋がっていないと感じた。市民活動団体がプレゼンテーションの練習をする際に市民大学の受講生が協力することや、事業の活発化のため、市民活動団体が市民大学に学びに行くといった、そういった関係性が大切だと思った。

そうすることで、興味のある人が少しずつでも増えていき、関わりたいと思っている人達が繋がるきっかけづくりができ、結果的には、市民活動団体も関わる人が増え、市民大学の受講生も実践する場を創出できるのではないかと思った。

事務局

一步踏み出す部分の支援をどうしていくのかが非常に重要だと感じている。まちづくりの担い手である市民大学の受講生・修了生が市民大学の中だけでなく、外の人と関わるコミュニティづくりを進めていくことが、市全体のまちづくりの取組みに繋がると考えているので、そこについては研究していきたい。

委員

先日、市民大学同窓会でこどもの教育に関する講座を元気プラザで開催したのだが、こどもや教育の問題だと平均年齢が71歳ではあまり響かないと感じる。平日や土日、昼間か夜で年齢層が変わってくるように、対象とする年齢層と整合性をとっていかないといけないため、今後どのように取り上げていくかが課題だと感じた。

事務局

可能な限り社会課題に寄せた講座をつくっていく必要があると感じている。しかし、寄せ過ぎてしまうと、今度は興味や関心があまりない人が入ってこなくなってしまうため、どこまで受講生の要望に講座を寄せていくのかを慎重に検討していく必要があると考えている。

また、基礎必須講座で学んだ結果、固定観念が変わったという事例があるように講座のつくり方次第では、社会課題に目を向けられる可能性はあると思っているので、講座については、また研究をしながら、つくっていきたい。

委員

地域の団体に人がいないということは、大きな課題だと思っている。福祉系の団体の中での課題は人集めだと思っている。仕事や課題はあるが、それを担う人材がいけないという問題があり、市民大学の福祉系の講座を受けた人から団体の中心メンバーとなる人の創出や誘導ができる仕組みづくりが大切だと思った。

事務局

人手不足を改善するための手段の一つとして広報が挙げられるが、高校生にはチラシでは効果が薄いように、欲しい情報が欲しい年齢層に届いているとは限らない。地域活動実践支援プログラムの中では、地域の団体が抱えている広報等の様々な課題を解決する取組を実施していこうと考えている。

具体的には、課題を解決する方法を少しずつ学んでいき、小さな成功事例をつくることで新しい動きが出てくることから、団体側と担い手側の両方を支援していくことが大切だと考えている。

(2) 令和7年度協働事業の報告及び令和8年度の取組について

【資料1】から【資料4】を参照し、事務局から説明を行った。

〈質疑応答・意見〉

委員

令和7年度から8年度で事業数が減っているが、事務局として何か気付きがあるか。

事務局

今の社会情勢に合わせて協働の仕組みを整えていく必要があると感じている。今後は市民大学とともに、議論をしていきたい。

委員

協働事業を公募で募集をすることは、市民に十分に周知できていない可能性もあり、ハードルが高いように感じる。10万円といった大きな金額ではなく、少額で多くの団体を支援し、参入へのハードルを下げる必要がある。試行錯誤を通じて参入の窓口を広げ、基準となるハードルを設けることで少しずつ失敗のリスクとなる部分を減らすことができると考える。

年齢や地域、家庭環境によってそれぞれやりたいことが同じテーマであったとしても異なる点はあるので今後は資金面にとどまらず、助言など個々の活動に寄り添った支援が重要になると考える。

委員

ボランティア同士の繋がりを深める場をつくってもらいたい。市民大学で行うS's Barのように気軽に声をかけて仲間が集められる場づくりが大切だと思う。

委員

団体が複数あると、どこに行けば相談ができるか、また、探すことができるのかわからないため、一般市民の方が見つけやすいような広報の仕方を工夫していくことが大切だと思う。

4 閉会

※配布資料

- 【資料1】 令和7年度提案型協働事業一覧
- 【資料2】 令和8年度提案型協働事業募集結果一覧
- 【資料3】 令和7年度の取組について（報告）
- 【資料4】 令和8年度の取組方針について
- 【資料5-1】 R7年度期さやま市民大学運営中間報告
- 【資料5-2】 R8年度期さやま市民大学運営方針（案）